

港湾振興便り



2013. 5

第73号

*:

目 次

*:

- 1 ポートエッセイ 「日ロ経済協力が前進 ～首脳会談後の動きを注視～」
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

2 トピック

- 「みなとオアシス小木」が誕生しました！
(北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所)
- 海面清掃兼油回収船「クリーンはりま」就航
(近畿地方整備局 神戸港湾事務所)
- RORO船によるトライアル輸送を実施しました
(境港管理組合 工務課)
- 浜田港福井地区に新しい倉庫が完成しました！
(島根県 土木部港湾空港課)
- 「沿岸部の液状化を考える講演会」を開催しました
(四国地方整備局 高松港湾・空港整備事務所)
- みなと見学会～こまつしまビジターハーバーフェスティバル～
(四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所)
- 伊万里港七ツ島地区国際物流ターミナル供用開始
(九州地方整備局 唐津港湾事務所)
- 唐津港西の浜遊歩道の砂除去作業～唐津港の夏のイベントに向けて～
(九州地方整備局 唐津港湾事務所)

3 お知らせ

*::~

- 1 ポートエッセイ 「日ロ経済協力が前進 ～首脳会談後の動きを注視～」
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

*::~

先月末に安倍総理がロシアを訪問し、プーチン大統領と首脳会談を行った。日本の総理のロシア公式訪問は10年ぶりという。長い空白がようやく埋まった。これも10年ぶり

北東アジアを見ると、対中国、韓国では領土問題が火を噴き、北朝鮮は核開発・ミサイル発射などで世界のひんしゆくをかけている。厳しい環境が続いてきた北東アジアでも、現状は「過去最悪」と国際環境の悪化を嘆く専門家が多い。

シェールガス革命の余波を受け、石油・ガスの販路をアジアに求めようとするロシアと、原発のほとんどが停止しLNGなどの輸入を増加せざるを得ない日本。相互依存関係を深める絶好の機会だ。

昨年、ウラジオストクでＡＰＥＣ首脳会合を開催し、ウラジオ拠点化にプーチン政権は力を注いだ。しかし、極東・シベリアの人口減少は深刻だ。プーチン大統領が極東活性化に向け、エネルギー開発と並ぶもう一つの柱と位置づけているのが農用地開発だ。

エネルギーや農業分野で日ロ連携が前進すれば、当然、極東の港湾や輸送路整備が必要となる。共同声明には日ロ投資プラットフォームなど、極東・東シベリアでの協力推進に官民が協議することが盛り込まれた。今後の展開を注視し、港湾分野も積極的に動いていきたい。

2 トピック

●「みなとオアシス小木」が誕生しました！

平成25年5月3日（金）、小木港において、「みなとオアシス小木」の登録証交付式が行われました。

「みなとオアシス小木」は、全国で69港目、石川県内では、「みなとオアシス輪島マリントウン」、「みなとオアシス七尾能登食祭市場」、「みなとオアシス宇出津」に次いで4港目の登録です。また、能登町として宇出津港に次いで2港目の登録となり、町としての2港登録は全国初となります。

当日は「小木とも旗祭り」が開催され、船上に高さ20mを超える「のぼり」を立てた。

船が並び、迫力と優雅さで来場者が大いに盛り上がる中、登録証交付式が行われました。

登録証交付式では、持木一茂 能登町長から「認定を機に、小木が活気あふれる港町として更に飛躍するよう努める」と挨拶があり、北村茂男 総務大臣政務官兼内閣府大臣政務官衆議院議員から「地域の発展に貢献できるよう皆さんと一緒に努力したい」と来賓挨拶がありました。

「みなとオアシス小木」登録証交付にあたって、松原裕 北陸地方整備局次長から、「伝統と文化で地域を盛り上げ、全国から観光で訪れる方々が



松原北陸地方整備局次長から持木能登町長へ登録証の交付

一緒に楽しんで頂ける『心のオアシス』を実現し、地域の発展につなげてほしい。」と挨拶があり、登録証が交付されました。

「みなとオアシス小木」では、今回開催された「とも旗まつり」、9月の「小木袖キリコ祭」などのイベントが開催されています。

今回のみなとオアシス登録により、全国への情報発信が促進され、更なる集客が期待されます。



大のぼりをバックに記念撮影

●海面清掃兼油回収船「クリーンはりま」就航

(近畿地方整備局 神戸港湾事務所)

主に播磨灘を中心に、海面を浮遊する大小様々なゴミや油などの障害物を回収し、航行する船舶の安全を確保するとともに海の環境を守る海面清掃兼油回収船「クリーンはりま」が就航し、平成25年4月20日に記念式典と船内公開を行いました。

式典当日は、盛山正仁法務大臣政務官や地元国会議員、関係自治体の長をはじめ、船名を付けた中学生など関係者約90名の皆様にご出席いただきました。

式典では、命名選考委員長（井上欣三神戸大学名誉教授）より「クリーンはりま」の命名について『播磨灘で環境のためにがんばってほしいという応募者の思いが込められており、清掃船をイメージさせる「クリーン」、活動する場所を柔らかいひらがな表記で「はりま」という点が、市民の皆様に親しんでもらえる名前であった』と、船名決定の経緯を

紹介。その後、地元園児らが元気いっぱいに合唱とダンスを披露し、式典を盛り上げてくれるなど、式典や船内公開にご出席いただいた皆様より「クリーンはりま」の今後の活躍に大きな期待を寄せられました。



播磨灘及び大阪湾は、海上交通の要衝である明石海峡を挟んで、東には国際コンテナ戦略港湾である「阪神港」、西にはエネルギーや素材産業の拠点である「姫路港・東播磨港」を擁するなど、多くの船舶が輻輳する海域であることから、この「クリーンはりま」が担う役割は重要です。今後とも地域の皆様と力を合わせ、航行船舶の安全性向上、海洋環境の保全に、引き続き全力で取り組んでいきたいと思ひます。

※建造後37年が経過し老朽化のため海面清掃船「いこま」が平成24年度末で引退し、平成25年度から最新鋭の海面清掃兼油回収船「クリーンはりま」にバトンタッチしました。

●RORO船によるトライアル輸送を実施しました

(境港管理組合 工務課)

境港では、中国地方と北海道、北陸及び関東の物流促進及び効率化を目的とし、国内フェリー・RORO船の定期航路の就航に向けて、境港と苫小牧港及び新潟港を結ぶトライアル輸送に取り組んでいます。

この度、第1回トライアル輸送を北海道開発局、中国地方整備局の港湾空港部をはじめ、関係機関のご協力のもと、4月15日～19日に実施することが出来ました。

トライアル輸送については、参加企業を1ヶ月程度の期間で募集し、鳥取、島根、広島、岡山の4県の企業から移入・移出の貨物が集まりました。

4月15日には、トライアル輸送のスタートとなる苫小牧港の出港に合わせて、境港市で船主を招いて、運行実験開始記念セレモニーを盛大に開催しました。

【トライアル日程】

月(4月15日)		水(4月17日)		木(4月18日)		金(4月19日)	
苫小牧港		境港		新潟港		苫小牧港	
荷役開始	出港	入港	出港	入港	出港	入港	荷役完了
8:00	12:00	5:00	11:00	10:00	13:00	13:00	16:00
2日		1日		1日		1日	



トライアル輸送ルート



セレモニーの様子

●浜田港福井地区に新しい倉庫が完成しました！

(島根県 土木部港湾空港課)

浜田港福井地区において、平成25年4月26日に保管倉庫「福井上屋」の竣工式が行われ、行政関係者、県内外の企業関係者など約80人が出席し、完成を祝いました。

今まで福井地区には荷さばき施設がなく、約4Km離れた長浜地区の倉庫まで陸送を行わなければなりませんでした。福井上屋の完成により荷さばきスペースも広がったうえ、温度を7～13℃に保つ定温倉庫を備えていることから、穀物や野菜といった農産品など温度管理が必要な貨物の取扱が容易になり、利便性が大幅に向上しています。竣工式に先立ち4月17日より供用を開始していましたが、すでに多くの荷物が入れられており、待ち望まれての完成がうかがわれます。



完成した福井上屋



完成を祝う関係者

現在福井地区には韓国からはコンテナ船が、ロシアからはRORO船が定期的に入港しています。島根県では、浜田港の利用促進体制を強化するため、新たに「浜田港湾振興センター」を設立しました。体制の強化とともに施設が充実する浜田港の取扱貨物量の増加につなげたいと思います。

●「沿岸部の液状化を考える講演会」を開催しました

(四国地方整備局 高松港湾・空港整備事務所)

4月21日(日)に、香川県坂出市において、「沿岸部の液状化を考える講演会」を開催致しました。

本講演は、瀬戸内沿岸が古くから大規模な埋立が繰り返された地域のため、液状化の発生が危惧されることから、実際の液状化被害を正しく知ることにより、東南海・南海地震等が発生した際の被害に備えることを目的として実施したものです。

当日は、東日本大震災で甚大な液状化被害を受けた浦安市の石井副市長による被害状況および震災後の対応等について、徳島大学大学院の渦岡教授による液状化のメカニズムや地盤改良等の対策についての2つの講演が行われ、地元企業や行政関係者、一般参加者等約370名の参加により盛況の内に終了することができました。

講演終了後のアンケートでは、約9割以上の参加者が、液状化対策の必要性を感じており、生々しい動画を交えた浦安市の被害状況を目の当たりにして、液状化の怖さ、対策の重要性を再認識した等の感想が寄せられました。



満席となった会場



ご来賓の地元国会議員

●みなと見学会～こまつしまビクターハーバーフェスティバル～

(四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所)

5月6日(月・祝)穏やかな春の日差しの中、徳島小松島港において「NP0法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま」が主催する「こまつしまビクターハーバーフェスティバル」が開催されました。会場では、ハーバーライブや乗馬体験など様々な催しを実施される中、当事務所は後援行事とし港湾業務艇「しまかぜ」による“みなと見学会”を実施いたしました。

みなと見学会については、当初3便予定しておりましたが、急遽臨時便を出す程の盛況ぶりで受付定員も早々に満員となり参加された方々には、普段経験することが無い“海から見る徳島小松島港”を存分に楽しんでいただきました。

今後も、港に関連したイベントを実施していく中で、みなさんに港の重要性や楽しさを体験していただきたいと考えています。



出船する港湾業務艇「しまかぜ」



みなと見学会の状況

●伊万里港七ツ島地区国際物流ターミナル供用開始

(九州地方整備局 唐津港湾事務所)

平成25年4月20日午前11:00より、佐賀県伊万里港において唐津港湾事務所と佐賀県が整備を進めてきた『国際物流ターミナル』の供用式典を開催しました。当日はあいにくの雨模様でしたが、100名を超える列席者のなか古川佐賀県知事、山本九地整副局長の式辞に続き、国土交通大臣挨拶(港湾局 菊地計画課長代読)、その後、来賓祝辞として保利衆議院議員、川崎参議院議員、中倉佐賀県議会副議長、塚部伊万里市長のお言葉をいただき、テープカット、初荷式と滞りなく執り行われました。



なお、岸壁（-13m）は完成供用しましたが航路泊地（-13m）の整備が残っており（今回は-11m供用）、引き続き完全供用に向けて整備を進めて参ります。



●唐津港西の浜遊歩道の砂除去作業～唐津港の夏のイベントに向けて～

（九州地方整備局 唐津港湾事務所）

平成25年4月27日（土）午前9：00より約1時間、佐賀県唐津港西の浜遊歩道において『唐津里浜づくり推進協議会』の主催で、例年行われている砂除去作業が実施されました。西の浜遊歩道は4月28日（日）に開催された『海・浜開き式』の式典会場として活用されるとともに、夏場にかけて開催される各種イベントの主要施設として利活用されるものです。当日は冬場に吹き上げられた砂の除去作業に約80名のボランティアが参加（うち、唐津港湾事務所から9名参加）



し、普段持ちなれないスコップと一輪車で溜まった砂を砂浜に戻しました。今後は、『九州花火大会』、『唐津湾イカダ大会』、『キャッスルベイ海辺の祭典』、その他イベント時の賑わいの場として地域に親しまれていきます。



3 お知らせ

[illegible]